

硫黄島調査特別委員会速記録

平成25年3月14日（木曜日）午前11時開会

出席委員（7名）

委員長	一木重夫君	副委員長	片股敬昌君
委員	高橋研史君	委員	鯨江満君
委員	杉田一男君	委員	池田望君
委員	稲垣勇君		

委員外出席議員（1名）

議長	佐々木幸美君
----	--------

出席説明員

村長	森下一男君	副村長	石田和彦君
教育長	伊藤直樹君	総務課長	江尻康弘君
総務課副参事	鈴木敏之君	総務課企画政策室長	湯村義夫君
自然管理 専門委員	岩本誠君	財政課長	今野満君
村民課長	斎藤実君	村民課副参事	村井達人君
医療課長	樋口博君	産業観光課長	渋谷正昭君
建設水道課長	増山一清君	建設水道課副参事	篠田千鶴男君
母島支所長	箭内浩彌君	出納課長	菊池元弘君
教育課長	佐々木英樹君		

事務局職員出席者

事務局長	セーボレー孝君	書記	菊池ひろみ君
------	---------	----	--------

議事日程

- 日程第1 NLP（日米再編）について（経過説明等）
- 日程第2 遺骨帰還について（経過説明等）
- 日程第3 その他
- 日程第4 閉会中の継続調査について

◎開会の宣告

○委員長（一木重夫君） ただいまから硫黄島調査特別委員会を開会します。

出席委員が定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

（午前11時）

◎会議時間の延長

○委員長（一木重夫君） あらかじめ会議時間の延長をしておきます。

◎NLP（日米再編）について

○委員長（一木重夫君） それでは、本日の議題に入ります。

日程第1、NLP並びに日米再編について、執行部から報告を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） ご説明いたします。

前委員会、平成24年12月7日以降の経過についてでございます。

NLPを含むFCLPにつきましては、この期間に実施はございませんでした。

以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告について、質疑、意見のある委員は挙手をお願いします。

池田 望委員。

○委員（池田 望君） なかったことは了解いたしました。今後の予定について何か伺っていることがあれば、ご報告をお願いいたします。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 平成25年度以降も引き続き実施する予定はございますけれども、まだ詳細の日程についてはご報告をいただいております。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎遺骨帰還について

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第2、遺骨帰還について、執行部から報告を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） それでは、遺骨帰還事業についての経過についてご報告いたします。

まず、開削調査、面的調査でございますけれども、第5回が平成24年12月6日から12月14日まで実施されております。小笠原村在住硫黄島旧島民の会より1名が参加しております。

第6回が平成25年2月18日から2月26日にかけて実施されており、小笠原村在住硫黄島旧島民の会より1名が参加しております。

次に、遺骨収容の実施でございます。通常派遣、第6回から10回まで5回実施されております。

まず、第6回、平成24年11月27日から12月13日に実施されまして、収容柱数については2柱でございました。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会からは不参加でございました。

続いて、第7回が平成25年1月10日から1月24日まで実施されておりました、収容柱数は3柱でした。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会より4名が参加してございます。上記の期間、全て参加ができず、1月19日から24日までの参加となっております。

第8回が平成25年1月23日から2月6日まで実施されております。収容柱数が1柱でございました。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会より7名が参加してございます。

続きまして、第9回が平成25年2月12日から2月27日まで実施されており、収容柱数は4柱でございました。

第10回が平成25年2月26日から3月11日にかけて実施されておりました、収容柱数は25柱でございました。

この9回、10回につきましては、小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会は不参加でございました。

続きまして、特別派遣、第4回、平成25年2月5日から2月13日まで実施されました。収容柱数は19柱でございました。この第4回特別派遣には、小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会より10名が参加しております。うち6名が内地のほうまで行きまして、2月14日の千鳥ヶ淵戦没者墓苑での遺骨の引渡式に参加してございます。

平成24年の通常派遣の第1回から8回まで及び特別派遣の第1回から4回までの累計の収容柱数が237柱でございました。この237柱が2月14日、遺骨の引渡式で引き渡しをされた柱数でございます。この後、先ほどご説明いたしました9回、10回の通常派遣での収容柱数を含めて、平成24年度の収容柱数は、通常派遣で98柱、特別派遣で168柱、合計で266柱という結果でございます。

報告につきましては以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告説明について、質疑、意見のある委員は挙手してください。

片股敬昌副委員長。

○副委員長（片股敬昌君） 基本的なことでちょっとわからないので、お伺いします。第6回から第10回まで2柱、3柱と出ていますけれども、これは同じ場所をずっと継続して調査されていたのか、それぞれいろいろな場所をやった結果なのか、お願いいたします。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） それぞれの回、その前の回からの引き継ぎ等があれば、同じ場所を収容いたしますけれども、概略終了しておれば、また次の場所という形での収容の実施となっております。

○委員長（一木重夫君） 池田 望委員。

○委員（池田 望君） これはずっと続けてこられたと思うのですが、この資料で小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会は第9回、第10回とも不参加と。不参加理由がもし発表できるのだったら、ここで発表してください。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 今年に入りまして、まず一つ、ヘリの確保が非常に難しいというのが、9回、10回不参加の理由とはなっておりますけれども、第7回の通常派遣から第4回の特別派遣まで1月10日から2月14日、この期間は、村と旧島民の会も連続して参加することができました。それと、先ほど2月14日の引渡式ということで、この特別派遣の第4回目に合わせまして、ご遺骨を内地まで一緒にお運びするという任務を終えた後、関係者は島のほうに帰ってきているということもございまして、今年度の村、それから会の参加については終了という形をとっております。

○委員長（一木重夫君） 池田 望委員。

○委員（池田 望君） 日程等の都合もあり、それなりの業務をされたということで、9回、

10回が不参加になったということですが、その前提の中にヘリの支援を受けられないということがあったということは、これは大きな我々の課題だと思います。過去の実績を見ますと、柱数もそんなにないんですが、旧島民の皆さんがずっと続けてこられて、その後、政府が本腰を入れていただいて、ぐっと数字として出ておりますよね。旧島民の皆様が十分な意思を持っていらっしゃるので、できたら、渡島手段を要請して行っていただきたいと思いますが、村長、いかがでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 池田委員のご指摘のとおりでございます。遺骨の帰還事業について、要望しておったところ、こうして新たな遺骨帰還事業として、枠をぐっと充実していただいた、これはみんな大変望んでいたところでございますが、回数が増えたことによって、従前プラス増えた部分のヘリの支援ということがなかなか大変だということで、困難だということで来ておりますので、事業の趣旨からしても、旧島民の皆さんはもちろん参加したいというふうに思っています。事業自体は厚生労働省の事業でございます、防衛省との省庁間協力となっておりますので、双方にヘリの支援の増について、これからも強く要望してまいりたいと思います。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 遺骨収容に関しては、政府の特別派遣という形が加わりまして、収容柱も格段に伸びたと、収容柱数がこれだけ飛躍的に増えるということは、旧島民の会にとっては非常に喜ばしいことだと思うんですけども、今現在、地殻変動が続いている硫黄島で一つ気になることを聞いたことがあるんですけども、遺骨が確認されている壕もある中で、地殻変動でちょっと不安定だと、坑道が。それで、収容したくても調査できないというような壕があるというふうに聞いたことがあるんですけども、村長、聞いたことがありますか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 現在もそういうことがあるのは聞いてもいますし、私は実際に現地でも体験もしています。特に摺鉢山のところは、下のところは壕があって、そこに遺骨もあるのはわかっているんですけども、あそこが地殻変動の関係で二次災害を防ぐというところから、手をつけられないというようなところが実際にありますので、現状そういうことがあるということも聞いていますし、実体験もしております。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 当然のことながら、遺骨が眠っているということが確認されている壕においては、今の進んだ土木工学の中では、多分いろいろな形で手段があるような気がします。また、村長としても、そのままの状態ですぐに終わりにすることは考えていないと思います。この部分に関して、ぜひ安全な方法を模索していただいて、一日も早く収容できるような形をぜひとっていただきたいと考えています。その辺、村長、ぜひお願いいたします。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 遺骨の収容事業に携わっている人は、みんなそういう気持ちでいると思います。ただ、二次災害があってはならないことだと思いますので、そういう今ご指摘のありましたように、二次災害を避けながら、何とか収容できる方策というのを、それは考えていただくように私のほうからも申し入れは行っていきたくと、こう思います。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

高橋研史委員。

○委員（高橋研史君） この遺骨収容の実態、過去の資料を見ますと、平成22年、23年、それと24年、格段に収容数が増えております。この背景は何かといいますと、やはり厚生労働省の中にできましたいわゆるプロジェクトチーム、帰還チームですか、その活動によるところが大きいと思います。

ただ、心配しているのは、この帰還チームの活動が平成25年度をもって終わってしまうということ。終わってしまっても、帰還事業というのは続いていくんでしょうけれども、永遠と続いていくのでは困るんですね。一日も早く、あの島に取り残されております英霊の御柱に本土にお帰りいただいて、安らかに床についていただきたいという願いは、これは小笠原村だけではなくて、日本全国、日本の願いでもあると思うんです。

そこで、平成25年度に期限が切れてしまいます帰還チーム、その名称がどうなるかはわかりませんが、このような力を入れた帰還作業をさらに国に継続していただくために、村としても意見をまとめて、国なり、関係機関に要望書なるものを作成して、この意思表示、お届けしたいと思うんですけれども、皆さん、ほかの委員さんのご意見をひとつ委員長、お伺い願います。

○委員長（一木重夫君） ただいま高橋委員から提案がありましたように、国に対して平成25年度以降も集中的な遺骨帰還の事業を継続してもらおうという、そういう働きかけという部

分を今、高橋委員のほうから提案がありましたけれども、ほかの委員の皆さん。

片股敬昌副委員長。

○副委員長（片股敬昌君） 旧島民の方々の思いは、最後の1柱までという思いが強くとあるというふうに十分私どもも感じております。やはり今、高橋委員から指摘ありましたように、力強い要望書というものをつくり上げて提出させるべきだと思っております。高橋委員の意見に賛成でございます。

○委員長（一木重夫君） 片股副委員長からのご意見もありましたけれども、そのほかございますか。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） 高橋委員の提案は、私も妥当な提案だと思います。そういう意味でも、私はこの事業を継続する必要があると思います。ということで、私は正副委員長で取りまとめて作業を進めていただきたいと、そういうお願いをいたします。

○委員長（一木重夫君） 要望書を持っていくという部分で、正副委員長で取りまとめをしまして、村長、執行部と議長と相談した上で、調整していきたいと思っておりますが、それでよろしいですか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。そういう形で進めさせていただきます。

その他、遺骨帰還事業について何かございますか。

（発言する者なし）

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎その他

○委員長（一木重夫君） 次に、日程第3、その他事項として、執行部から報告を求めます。

総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） ご説明いたします。

まず、硫黄島のエアークッション艇、LCACの訓練についてでございます。

平成24年12月12日から14日にかけて訓練が実施されております。

次に、硫黄島旧島民平和祈念公園の管理事業についてでございます。

第4回が平成25年1月15日から1月18日、第5回が平成25年2月22日から26日まで実施されております。小笠原村及び小笠原村在住硫黄島旧島民の会より、第4回に6名、第5回に4名が参加しております。第6回につきましては、3月22日から25日まで実施の予定でございます。

次に、硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参について、こちらは東京都主催の墓参でございます。平成25年3月15日に実施予定でございます。今回は、日帰りでの墓参ということになります。

次に、厚生労働省主催の硫黄島慰霊巡拝、第3次が平成25年2月27日に実施されております。参加者81名、うち遺族の方が73名でございました。

当委員会で第1次、第2次の報告が漏れておりました。まことに申し訳ございません。

第1次につきましては、平成24年7月4日実施、参加者39名、うち遺族の方33名、第2次、平成24年11月14日実施、参加者83名、うち遺族75名でございました。

次に、日米硫黄島合同慰霊追悼顕彰式、通称日米合同慰霊祭と呼ばれているものでございます。

平成25年3月13日、昨日実施されております。詳細についての確認をまだとれてございませんので、参加者は予定で約90名とお聞きしております。日本側の実施主体が硫黄島協会、アメリカ側の実施主体がアメリカ海兵隊退役軍人会でございます。なお、参加者の輸送に当たっては、民間機をチャーターしての実施となっております。

報告につきましては以上でございます。

○委員長（一木重夫君） ただいまの報告説明について、質疑、意見のある委員は挙手してください。

片股敬昌副委員長。

○副委員長（片股敬昌君） 硫黄島におきまして、さまざまな訓練がされているということは伺っておりますけれども、こうした訓練に対して、ほとんど見たことがないという議員が多いんですね。極力、我々にもどんな訓練でどういう目的でされているのかということを直接目で見るといった場を設けていただければありがたいと思います。ぜひそういうことで執行部のほうで何とか働きかけていただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 村長、森下君。

○村長（森下一男君） 片股副委員長のおっしゃっていることはよくわかります。執行部から

もそういう議会の皆様の意向があるよということはお伝えしますが、議会の皆様、議会として、きちんと申し入れをすることがよろしいのではないかと、そのように思います。

○委員長（一木重夫君） 委員会としても、皆さんと調整の上、そういう申し入れをやっていききたいと思います。

その他ございませんか。

佐々木幸美議長。

○委員外議員（佐々木幸美君） ちょっとお聞きしたいんですけれども、2番目の明日実施される東京都主催の硫黄島及び北硫黄島旧島民の墓参、日帰りということで聞いたんですけれども、北硫黄島の旧島民の墓参についてはどのような形で行われるのでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 墓参場所としては硫黄島ということなんですね。北硫黄島にお住まいだった方も含まれて、硫黄島の墓参に参加いただくという内容になってございます。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） その他ということで関連でお聞きします。昨日の一般質問でも総務課長の答弁の中に平成25年の訪島事業、できるだけ昔の形で実施したいという話がありました。私は大変いいことだと思っていますし、懸案であったブイも新たにやり直してくれるという話もありました。ぜひそういう形でやっていただきたいと思いますが、現実的にそういう部分はいつごろ決まりますか。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 現場の検証と申しますか、状況の確認も必要となります。旧島民の方にご通知を差し上げるのが4月の終わりから5月の初めということになりますので、それまでの間にある程度の内容を固められればと考えております。

○委員長（一木重夫君） 杉田一男委員。

○委員（杉田一男君） そうすると、条件が許せば、島民参加ということも考えているということでしょうか。

○委員長（一木重夫君） 総務課長、江尻君。

○総務課長（江尻康弘君） 島民の方からの要望も数多くお聞きしているところがございますので、できるだけその方向に向けて調整をしていきたいと思っています。

○委員長（一木重夫君） その他ございませんか。

(発言する者なし)

○委員長（一木重夫君） 質疑がもうないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

次に、その他でほかに何かございませんか、硫黄島に関すること全般で何かございませんか。

(発言する者なし)

○委員長（一木重夫君） 質疑がないようですので、これにて質疑を終了します。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

◎閉会中の継続調査について

○委員長（一木重夫君） 次に、本委員会の閉会中の継続調査についてお諮りします。

お手元に配付の特定事件継続調査事項表の事項を調査するために、閉会中の継続調査の申し出をしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、閉会中の継続調査を申し出ることに決定しました。

◎閉会の宣告

○委員長（一木重夫君） お諮りします。

本日の議題は終了しましたので、これをもって本委員会を終了したいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○委員長（一木重夫君） 異議なしと認めます。

よって、本日の委員会を閉じます。

これをもちまして、硫黄島調査特別委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

(午前11時30分)